

## ルールメイキングプロジェクト2023 ～“やってみたい”の創造へ～

校則など身近なルールのあり方を考えることで、高校生の意思決定や自己発信の力をつける「ルールメイキングプロジェクト」の取り組みが、西条市丹原町願連寺の丹原高校で展開されている。今年は全校生徒370人が参加。5日に本年度の初回となるワークショップがあり、教職員を交えた7、8人ずつの班に分かれて「前髪の長さ」に関する校則について意見を出し合った。

「男子前髪は肩に掛からないように心がけること(女子)前髪は肩を越えないようにすること 越える場合はピンでとめること」。この規定は本当に必要か、必要ならばどのような規定にするか。生徒と教員が考えを明らかにし、各自の意見が出そろった。議論は徐々に盛り上がりを見せた。生徒からは個性を大切にしたいとの理由で不必要の意見が多く出され、極端な髪形にする人が出ないよう最低限の規定は必要という意見もあった。一方、教員は高校生

### Q 前髪の長さ規定必要？

## 校則 議論 磨く対話力

「前髪は肩を越えないようにすること 越える場合はピンでとめること」。この規定は本当に必要か、必要ならばどのような規定にするか。生徒と教員が考えを明らかにし、各自の意見が出そろった。議論は徐々に盛り上がりを見せた。生徒からは個性を大切にしたいとの理由で不必要の意見が多く出され、極端な髪形にする人が出ないよう最低限の規定は必要という意見もあった。一方、教員は高校生らしさの大切さから「規定は必要」との意見が多数。女子の前髪の範囲について議論が白熱する班もあった。結論を出すための議論ではなく、自身の意見を伝え、各メンバーの主張や考えを聞く「対話」に重きを置いた。講師役を務めたワンターエデュケーション(松山市)の越智大貴代表は「社会に出ればルールを守る力、創る力、運用する力が求められる」と呼びかけていた。

## 西条・丹原高 意見を尊重 全校で実践



大人(教員)の意見を聞きつつ、校則の見直しについて対話する生徒ら＝5日午後、西条市丹原町願連寺

と。昨年からの活動する同校2年田村結良さん(16)は「自分の意見を伝えることで、相手の意見を得ることもできる。本能的に意見が言えるような環境づくりをしていきたい」と目標を語り、担当する谷口大祐(高橋圭太)は「最初は議論ができていない生徒もいるが、繰り返すことで徐々に自信がつく。主体的に意見が言えるような環境づくりをしていきたい」と話している。

対話を重ね、みんなの「納得解」を作るプロセスを学んでいます。全校生徒・教師・保護者・地域が一体となって取り組んでいます。